



外からは見えない「非日常な空間を」

路地の空に開く家



ボーダーレスに「つながる空間を」

外とつながる「極めた開放感を」

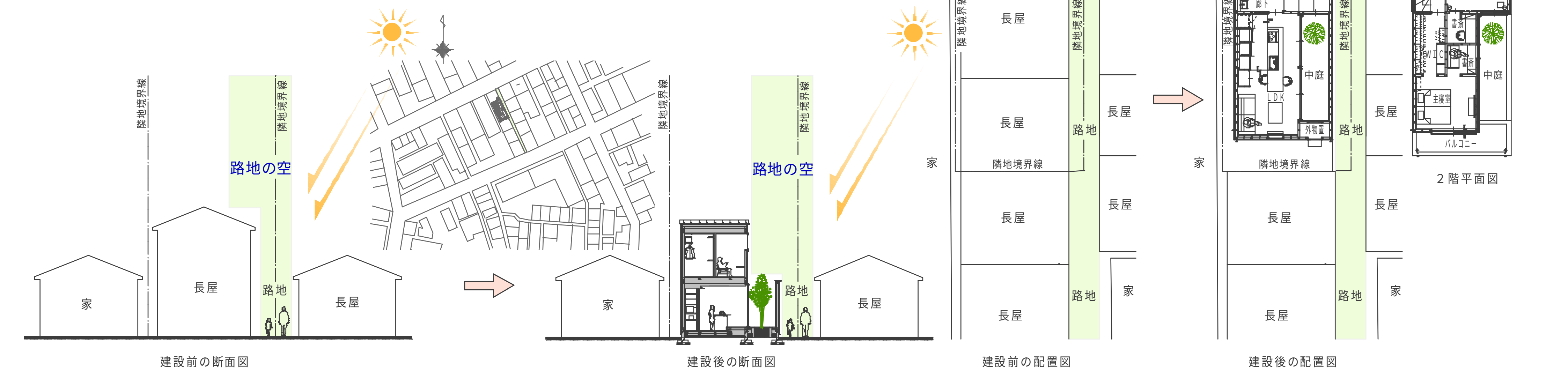
路地の空

敷地は下町であり、周辺には狭い路地に沿って建つ木造の長屋が点在している。この敷地にも長屋が存在しており、東側は狭い路地に面している。かつての五軒長屋の三軒を切り取り、そこに間口約5m、奥行き約12mの二層分の木造住宅を計画した。

東側の路地の上空に「余白」があることに気づきその余白を活かそうと考え、建物の5分の一程を中庭とし路地の「上空」から採光を取る計画とした。

外に面しては採光目的の窓は設けずに、1階の採光は中庭を介して「路地の空」から間接的に取り入れる計画とした。敷地の南面は切り取った長屋の小口、東面は路地、その他は住宅で囲まれているが「路地の空」のみを利用し外からは中が見えないように防火壁を設置している。

料理をしながら空が見えるようにキッチンの床の高さを1段下げている、そのため視線が空まで抜ける空間としている。路地に将来建物が建つことはないため、空が見える空間は、これから先の将来も変わりなく持続できる。



建設前の断面図

建設後の断面図

建設前の配置図

建設後の配置図

2階平面図